

シンポジウム 現場から考える裁判員裁判



日時：2025年5月11日（日）13時—16時30分 *公開、無料

会場：専修大学神田キャンパス 10号館 6階 10062教室（東京都千代田区神田神保町3-8）
（オンライン配信を併用、右のURLまたはQRよりお申し込み下さい）

趣旨：市民からくじで選ばれる裁判員が、罪の重い刑事事件の裁判に裁判官とともに参加して判断する裁判員制度は、2009年5月の実施から16年が経過しつつあります。

この間、年間千件前後の裁判員裁判が行われ、13万人ほどが裁判員・補充裁判員を務めています。国内では、2011年の東日本大震災などの災害や2020年からのコロナ禍などがあり、2022年から裁判員に選ばれる年齢は20歳以上から18歳以上へ下がりました。国外では、韓国が2008年から国民参与裁判制度を、台湾が2023年から裁判員制度に似ている国民法官制度を、それぞれ開始しています。

この機会に、裁判員裁判の現場に関わってきた法律関係者、新聞記者や裁判員経験者の視点から、これまでの裁判員制度の歩みを振り返り、裁判員裁判の実情や展望などについて意見交換を行い、あらためて裁判員裁判について理解を深め、考える機会としたいと思います。多くの方々のご参加をお待ちしております。

参加申込フォーム

<https://x.gd/MB9YN>



第1部 報告と意見交換 —裁判員裁判のこれまでの歩み

飯考行（専修大学教授・裁判員ラウンジ）「裁判員裁判のこれまでと台湾の国民法官裁判からの学び」

裁判員経験者「主婦が裁判員をつとめて感じ考えたこと」

西村健（弁護士・裁判員ACT）「裁判員制度により刑事裁判はどのように変わったか」

コーディネーター：大城聡（弁護士・裁判員ネット）

第2部 座談会 —裁判員裁判の実情と展望

半田靖史（元裁判官・弁護士）、久保有希子（弁護士）、中山岳（東京新聞記者）、裁判員経験者

コーディネーター：牧野茂（弁護士・裁判員経験者ネットワーク）

主催：裁判員経験者ネットワーク、裁判員ネット、裁判員ラウンジ、専修大学法学研究所

後援：社会福祉法人 大阪ボランティア協会 “裁判員ACT”裁判への市民参加を進める会、陪審裁判を考える会、Lay Judge Community Club ～裁判員経験者によるコミュニティ～

問い合わせ：飯考行（専修大学） メールアドレス：iit@isc.senshu-u.ac.jp